

[2015年4月1日~2016年3月31日]
2016年6月発行

CONTENTS

USHIO NOW!	P 2
ごあいさつ／	
社長インタビュー	P 4
ウシオの成長戦略	P 6
特集 光のものがたり	P 8
事業の概況	P 10
決算の状況	P 12
ここにもウシオ	P 16
ガバナンス	P 17
株主さまとともに	P 18

USHIO NOW! ウシオの今

◆ ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

◆ ウシオのマーケット

Electronics

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Life Science

医療、自然環境、農業、海洋／漁業、セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など

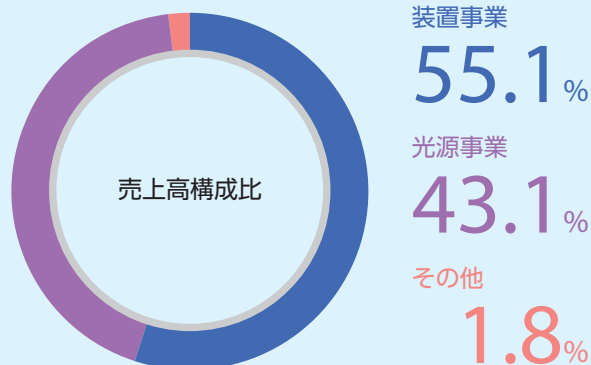
Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、バーチャルリアリティ（VR）／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

業績ハイライト (2015年4月1日～2016年3月31日)

売上高 1,791 億円

営業利益 131 億円



◆ 世界で勝てるウシオへ ～働き方改革 オープンイノベーションを目指して～

2016年2月1日より大阪支店が、2016年3月28日より東京本社が新オフィスで始動しています。今回の移転は、単なるオフィスの移設ではなく、「ワークスタイルの変革（働き方の改革＋働く場の改革）」が目的です。また、これまで以上に、新しい技術や事業を生む環境を整え、オープンイノベーションによって世界で勝てるウシオを目指しショールームを開設しました。

新オフィスでは、他部署とのコミュニケーションを図りやすいフリーアドレスを導入したり、文書のデータ化を進めて部署内で効率的に情報共有を行ったり、生産性を高める会議環境を構築したりとさまざまな工夫がなされています。また、大阪支店

はウシオライティングやマックスレイと同じビルとなり、グループ各社との協業の強化も期待できます。



執務スペース



ショールーム
[USHIO COMMUNICATION LAB]

[装置事業]

映像装置分野のシネマ関連や光学装置分野のスマートフォン関連の販売が拡大したことにより増収増益となりました。

前期 ▶ 当期

売上高※ 840億円 ▶ **987**億円 ↗

セグメント利益 △0.3億円 ▶ **17**億円 ↗

[光源事業]

シネマランプの販売が拡大したことや、固体光源事業の拡大などにより増収増益となりました。

前期 ▶ 当期

719億円 ▶ **772**億円 ↗

100億円 ▶ **109**億円 ↗

[その他]

金型検査装置などの販売が低調に推移したことなどから、減収増益となりました。

前期 ▶ 当期

33億円 ▶ **31**億円 ↘

1.7億円 ▶ **1.8**億円 ↗

※外部顧客への売上高を記載しています。

ごあいさつ



代表取締役会長

西村 昌彦



代表取締役社長

平島 健爾

世界で勝てるウシオを目指して

株主・投資家の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

産業用光源としてスタートしたウシオの光は、今日では世界有数の光のメーカーとして「エレクトロニクス」「ビジュアルイメージング」「ライフサイエンス」の領域を中心に、数多くの分野で世界初や世界シェアNo.1の製品を生み出し、さまざまな光のソリューションをご提供できるまでになりました。

ウシオはコーポレートガバナンスやワークスタイルの見直しなどの経営革新にも取り組んでおり、世界で勝てる新たな強みを持つウシオへの変革を目指しています。

ウシオの今後にどうぞご期待ください。

社長インタビュー

Q1

2016年3月期の業績を教えてください

2016年3月期は、売上高が前期比12.4%増の1,791億2千1百万円、営業利益は同26.8%増の131億3千万円、経常利益は同6.7%増の146億3千3百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、本社の移転費用を特別損失に計上したことなどの影響から、同1.5%減の111億5百万円となりました。

装置事業では、円安ドル高の為替影響に加えて、映像装置分野で中国シネマ市場での新製品販売と一般映像のレンタル用新製品を投入したこと、光学装置分野でハイエンドスマートフォン向け電子部品と中小型液晶パネルの需要が増加したことなどにより投影露光装置と光配向装置の出荷が増加し、増収増益となり、前期の赤字から黒字化することができました。

光源事業では、為替影響に加え、シネマプロジェクター用クセノンランプと固体光源事業の拡大などにより増収増益となりました。

Q2

前中期経営計画の振り返りと、ローリングプランについてご説明ください

2015年5月に発表した中期経営計画では、2018年3月期の売上高2,200億円、営業利益180億円(営業利益率8.2%)、ROE8.0%以上を目標値として掲げ、「事業収益の拡大」「資本効率の向上」「株主還元強化」の3つの重点施策を進めてきました。権限委譲による意思決定のスピードアップ、R&D投資効率の改善、M&A投資の推進、投資案件のモニタリング、映像画像事業のトータルソリューション展開、グループシナジーの強化などを実施したことで、2016年3月期は計画初年度の目標値を概ね達成しました。

このような中、ウシオは毎年ローリングしている中期経営計画において、2019年3月期の目標値を、売上高2,300億円、営業利益200億円、営業利益率8.7%と発表しました。

2016年5月発表の中期経営計画では、「営業利益の増加」と「収益性の改善」を最優先の経営目標とし、「高収益企業への変革」を目標として掲げています。既存事業においては、構造改革やコスト競争力の強化を進めていきます。同時に、既存製品の強みを活かした新分野への積極展開、ソリューションビジネスを本格展開することで、新たな成長機会を追求し、持続的な収益性の向上を目指します。

具体的な施策については、6～7ページをご覧ください。

Q3

経営基盤の強化策について教えてください

ウシオは、事業拡大への施策とともに、あらゆるステークホルダーからの信頼にお応えするための施策として、コーポレートガバナンス、コンプライアンス体制強化による内部統制システムの充実、BCPなどリスク管理体制の整備により安定した事業継続にも努めていきます。

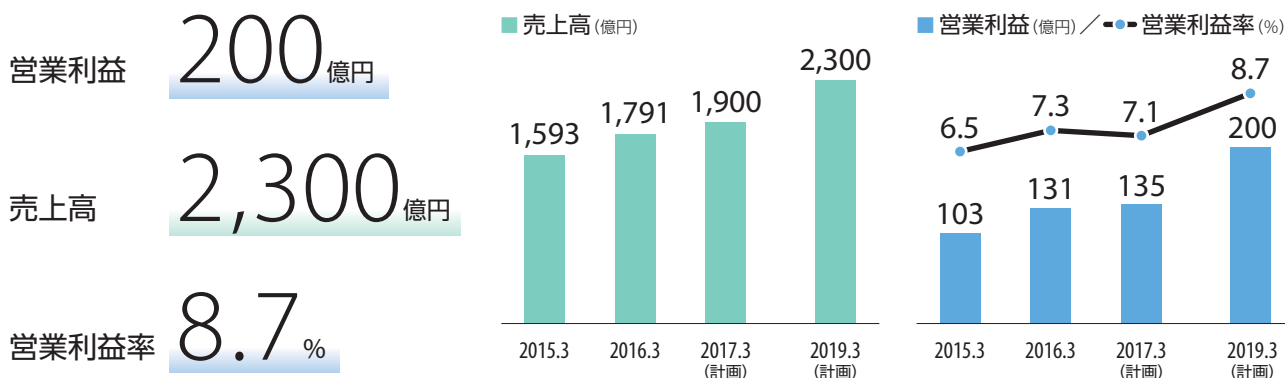
2016年6月には、取締役会の監督機能の強化を図るとともに、重要な業務執行の一部について、その決定を業務執行を担う取締役および執行役員へ委任することによる意思決定の迅速化を推進するため、監査等委員会設置会社へ移行しました。また、オフィス移転に伴い、社員のワークスタイルも見直しています。これにより、業務の効率化、グループ間のシナジーなど、ウシオが今後さらに成長する仕組みづくりを迅速に進めています。グローバル市場で勝ち残るためにも、さまざまな改革を積極的に推し進めていきます。

ウシオの成長戦略

◆ 中期経営計画（～2019年3月期）における達成目標

高収益企業への変革

営業利益の増加と収益性の改善を最優先の経営目標としています。



◆ 目標達成へ向けた施策

① 既存事業における収益性の維持・改善

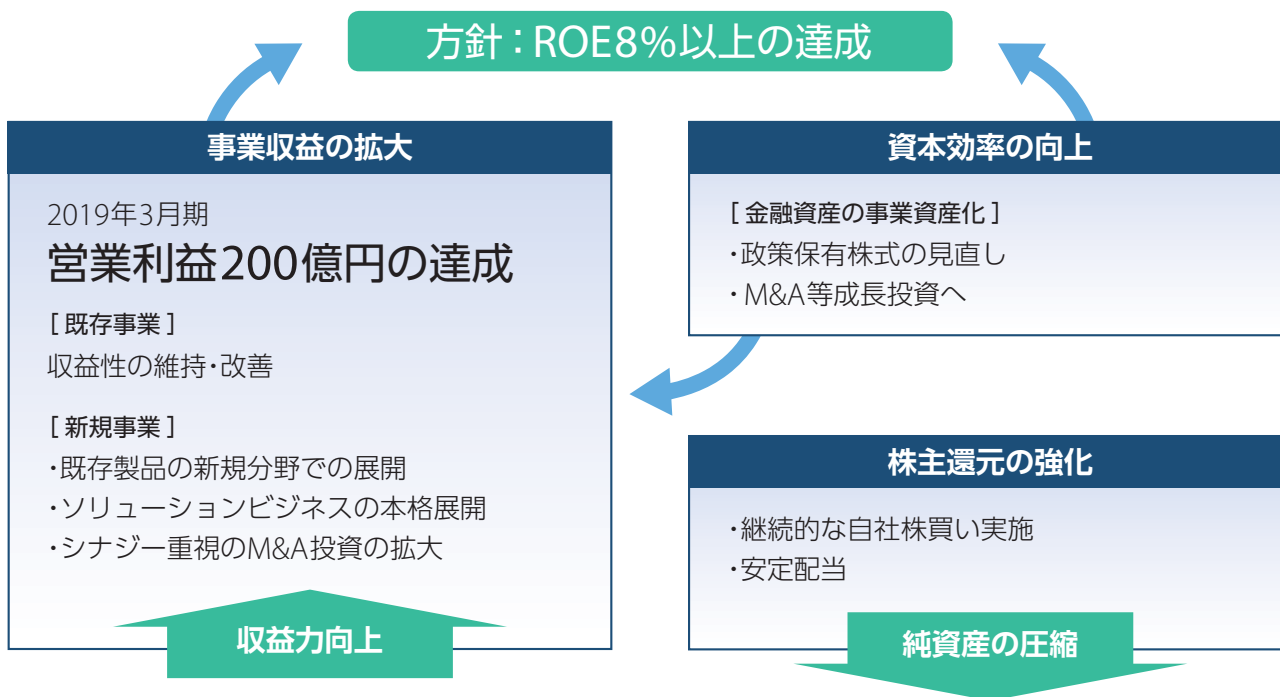
- ・光学装置事業における構造改革第2ステージへ
- ・光源、装置事業のコスト競争力強化

② 新たな成長機会の追求

- ・既存製品の新規分野での展開
- ・ソリューションビジネスの本格展開
映像分野におけるソリューション型ビジネスモデルの確立
他事業分野へのソリューション展開の拡大
- ・シナジー重視のM&A投資の拡大

◆ 企業価値向上に向けた考え方

事業収益の拡大を着実に進めるとともに、資本効率の向上や株主還元の強化によりROE8%の早期達成を目指します。



— 例 映像画像事業のトータルソリューション —



シネマ

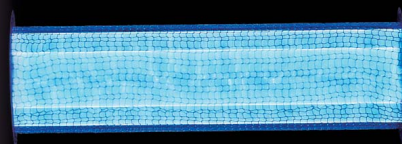


プロジェクションマッピング



デジタルサイネージ

誘電体バリア放電エキシマランプ (以下、エキシマランプ) は、1993年にウシオが世界で初めて商品化してから、エレクトロニクス分野のみならず医療やライフサイエンス分野でも活躍しており、発売から20年以上が経過した現在においても、さまざまな場面で利用されています。



1
エレクトロニクス分野
だけでなくライフ
サイエンス分野でも活躍

光で洗う》》 172nm エキシマランプ

液晶パネルの製造現場では、真空紫外光である172nm (ナノメートル) の波長を生むエキシマランプが「洗浄」の工程で使われています。近年、液晶パネルの高精細化につれて、その回路はますます微細化・複雑化しており、製造工程で使用される化学物質や汚れ (有機化合物) がわずかに残っただけでも不具合を引き起こすため、洗浄の工程が一層不可欠となっています。重要度の高い洗浄工程の現場では、実績のあるウシオのエキシマランプが選ばれているのです。

光で治療する》》

308nm エキシマランプ

同じエキシマランプでも、308nmの波長の光を発するエキシマランプは、尋常性乾癬や尋常性白斑などの皮膚治療に使われます。308nmの光には、病気の原因となる暴走した白血球を壊すなどの効果があると言われています。

ウシオの紫外線治療器「セラビーム®UV308」は、リスクのある短波長側の光をカットするエキシマフィルターを搭載。肌が赤くなるなどの症状を低減し、黄色人種の肌質に適した紫外線を実現しました。現在は日本からアジア各国で広く使われ、患者さまのQOL*の向上に大きく貢献しています。

*QOL (Quality of Life): 充実した質の高い生活

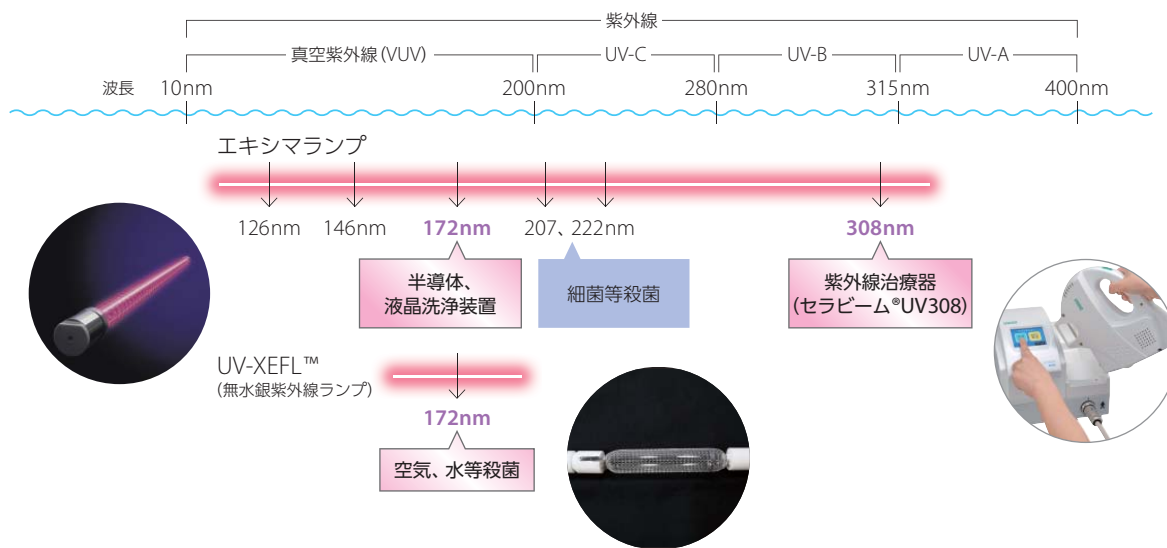
光で殺菌する》》

エキシマランプの技術を活用した 172nm UV-XEFL™ (ゼフル)

(無水銀紫外線ランプ)

環境に優しいさまざまなランプの製造技術を持つウシオは、従来のエキシマランプにUV発光蛍光体を塗布することで、紫外線を発光する無水銀紫外線ランプUV-XEFL™を製品化しました。光殺菌は水銀ランプの使用が一般的でしたが、環境問題への関心の高まりから無水銀製品が求められていることに加え、温度環境に依存せず使えるなど水銀ランプにはない特長があることから、空気や水などの殺菌に使われています。

エキシマランプ



さらに広がる
エキシマランプの用途

エレクトロニクス分野で有機EL化が進めば、また新たな工程でウシオの光が必要になるかもしれません。医療の分野では、人工的なものを親水性に変える光の作用を応用し、再生医療への貢献も期待されています。公衆衛生の分野では、これまでの産業用のものを応用することで、より効果の高いUV殺菌の装置が私たちの目に見える形で登場する日もやってくるはずです。

エキシマランプは、さまざまな分野へ活躍の幅を広げ、私たちの暮らしを変えています。そしてUV-XEFL™のような派生技術も、世界にまた新たな価値を生み出しています。

今後もウシオが提供する光のソリューションに、是非ご期待ください。

ウシオの
エキシマランプの
歴史

1993 誘導体バリア放電エキシマランプ

1994 エキシマVUV/O₃洗浄装置

2007 ArFエキシマランプ

2008 水銀レス蛍光ランプ「XEFL®」

エキシマライト紫外線治療器
「セラビーム®UV308」

2012 エキシマ光照射器「Min-Excimer」

事業の概況

装置事業



映像装置

- デジタルシネマプロジェクター (DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム

光学装置

- 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- 紫外線治療器など医療機器
- 半導体検査・開発用EUV光源装置

基本戦略

映像装置

〈目標〉

トータルソリューションビジネスの拡大

〈施策〉

- ・ソリューション提供型ビジネスモデルの確立
- ・安定収入モデルの確立

光学装置

〈目標〉

経常的な黒字化を目指した構造改革

〈施策〉

グループ戦略の見直し

光源事業



放電ランプ/LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など)
- 産業用ヒーターランプ

基本戦略

〈目標〉

「収益性の維持」と「持続的成長」

〈施策〉

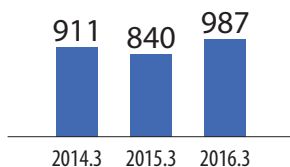
既存分野：シェア維持と製造コスト改善
新規分野：成長市場へ積極的に参入

■ 当期の業績

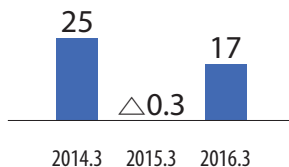
映像装置分野は、一般映像が微増収にとどまるも、中国を中心とした新興国でのシネマスクリーンの新設が継続していることを受け、デジタルシネマプロジェクター（DCP）の出荷が増加、また、レーザープロジェクターの採用が進んだことなどから、シネマ関連事業の販売が拡大しました。

光学装置分野は、電子デバイス向け投影露光装置の販売が増加したに加え、引き続き中小型液晶パネルの高精細化による需要によりモバイル用高精細液晶パネル向け光配向装置の販売が増加しました。

売上高※（億円）



セグメント利益（億円）

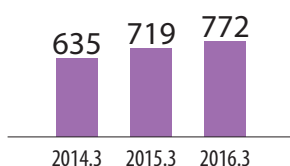


■ 当期の業績

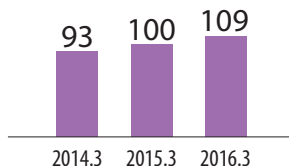
放電ランプのうち、露光用UVランプは価格競争の影響や半導体分野、液晶分野ともに長寿命タイプの採用が拡大していることから減収となりました。一方、シネマプロジェクター用クセノンランプは中国などの新興国を中心にDCPの総設置台数が増加し、増収となりました。固体光源ではM&Aにより半導体レーザー事業、LED事業を拡大したことで増収となりました。

ハロゲンランプはOA用が新興国の景気低迷の影響を受けて減収となりました。

売上高※（億円）



セグメント利益（億円）



■ 今後の取り組み

映像装置では、DCPの販売台数はほぼ横ばいで推移する見込みです。また、ドルビーシネマの拡大によるレーザープロジェクターの販売は増加を見込んでいます。さらに、シネマ、一般映像によるトータルソリューションビジネスの拡大を見込んでいます。

光学装置では、投影露光装置の台数は今期並みと考えていますが、中小型液晶パネルの高精細化に向けた需要継続により光配向装置の出荷は増加する見込みです。

	（億円）		
売上高	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期（計画）
映像装置	603	703	810
光学装置	212	259	280
照明装置他	23	24	25

■ 今後の取り組み

放電ランプでは、固体光源は増収するものの、露光用UVランプ、クセノンランプは価格競争などによる影響で、ほぼ前期並みか微減収で推移するものと思われる。

ハロゲンランプは、OA用が新興国の景気低迷の影響から減収となる見込みです。

	（億円）		
売上高	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期（計画）
放電ランプ	576	634	635
ハロゲンランプ	142	137	130

※外部顧客への売上高を記載しています。

決算の状況

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示)

■ 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第53期 (2016.3.31)	第52期 (2015.3.31)	科目	第53期 (2016.3.31)	第52期 (2015.3.31)
資産の部			負債の部		
流動資産	170,173	178,774	流動負債	49,463	44,886
現金及び預金	54,595	60,765	支払手形及び買掛金	17,797	17,786
受取手形及び売掛金	38,424	39,796	短期借入金	5,049	4,272
有価証券	7,893	13,503	その他	26,615	22,827
商品及び製品	30,705	28,997	固定負債	33,765	30,932
仕掛品	10,215	7,888	負債合計	83,228	75,818
原材料及び貯蔵品	15,716	15,361	純資産の部		
繰延税金資産	5,070	6,016	株主資本	183,057	178,891
その他	8,677	7,740	資本金	19,556	19,556
貸倒引当金	△1,125	△1,295	資本剰余金	27,672	28,301
固定資産	124,352	115,767	利益剰余金	151,856	143,883
有形固定資産	42,310	40,014	自己株式	△16,027	△12,850
建物及び構築物(純額)	17,507	18,000	その他の包括利益累計額	25,647	37,033
機械装置及び運搬具(純額)	4,696	4,019	その他有価証券評価差額金	31,072	29,892
土地	10,119	9,670	繰延ヘッジ損益	—	0
その他	9,986	8,322	為替換算調整勘定	4,375	12,425
無形固定資産	10,786	7,098	退職給付に係る調整累計額	△9,800	△5,285
投資その他の資産	71,256	68,655	非支配株主持分	2,590	2,798
投資有価証券	65,745	63,250	純資産合計	211,296	218,723
その他	5,511	5,405	負債純資産合計	294,525	294,542
資産合計	294,525	294,542			

資産は、前期末に比べ1千6百万円減少し、2,945億2千5百万円となりました。主な減少要因は、自己株式の取得等による「現金及び預金」の減少および公社債投資信託等の売却による「有価証券」の減少です。主な増加要因は、商量増加に伴うたな卸資産の増加、M&Aに伴う「無形固定資産」に含まれるのれんの増加および債券等購入による「投資有価証券」の増加です。

負債は、前期末に比べ74億1千万円増加し、832億2千8百万円となりました。主な増加要因は、運転資金需要による「短期借入金」の増加および割引率変更等による「固定負債」に含まれる退職給付に係る負債の増加です。

純資産は、前期末に比べ74億2千7百万円減少し、2,112億9千6百万円となりました。主な減少要因は、円高による「為替換算調整勘定」の減少、割引率変更による「退職給付に係る調整累計額」の減少および自己株式の取得による「自己株式」の増加です。

■ 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第53期	第52期
	(2015.4.1~2016.3.31)	(2014.4.1~2015.3.31)
売上高	179,121	159,365
売上原価	110,717	98,030
売上総利益	68,403	61,335
販売費及び一般管理費	55,273	50,977
営業利益	13,130	10,357
営業外収益	2,338	3,744
営業外費用	836	393
経常利益	14,633	13,708
特別利益	2,051	3,650
特別損失	1,496	1,813
税金等調整前当期純利益	15,187	15,545
法人税、住民税及び事業税	3,003	3,342
法人税等調整額	998	660
法人税等合計	4,001	4,002
当期純利益	11,186	11,542
非支配株主に帰属する当期純利益	80	263
親会社株主に帰属する当期純利益	11,105	11,279

装置事業、光源事業ともに順調に推移し増収増益となったことで、**売上高**は前期比12.4%増の1,791億2千1百万円、**営業利益**は前期比26.8%増の131億3千万円となりました。

経常利益は、円安ドル高による為替影響があったものの、保有株式の運用損もあり、前期比6.7%増の146億3千3百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、本社移転に伴う特別損失を計上し、前期比1.5%減の111億5百万円となりました。

■ 連結包括利益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第53期	第52期
	(2015.4.1~2016.3.31)	(2014.4.1~2015.3.31)
当期純利益	11,186	11,542
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,179	8,485
繰延ヘッジ損益	△0	7
為替換算調整勘定	△8,244	11,020
退職給付に係る調整額	△4,515	△597
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
その他の包括利益合計	△11,580	18,919
包括利益	△394	30,462

営業活動によるキャッシュ・フローは、120億3千1百万円の収入となりました。主な収入は、税金等調整前当期純利益の計上151億8千7百万円および減価償却費の発生64億9千5百万円です。主な支出は、固定資産売却損益の発生10億7千5百万円、およびたな卸資産の増加81億8百万円および法人税等の支払43億4千9百万円です。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第53期	第52期
	(2015.4.1~2016.3.31)	(2014.4.1~2015.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,031	9,876
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,367	△3,710
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,849	1,210
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,991	4,270
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△9,176	11,646
現金及び現金同等物の期首残高	56,989	45,342
現金及び現金同等物の期末残高	47,813	56,989

投資活動によるキャッシュ・フローは、103億6千7百万円の支出となりました。主な収入は、定期預金の払戻154億3千2百万円、有価証券の売却及び償還72億4千8百万円、および有形固定資産の売却19億5千3百万円です。主な支出は、定期預金の預入137億6千6百万円、有価証券の取得39億4千万円、有形固定資産の取得79億3百万円、投資有価証券の取得61億3千4百万円、および連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得38億8千3百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは、78億4千9百万円の支出となりました。主な収入は、長期借入による12億1千2百万円です。主な支出は、長期借入金の返済13億7千3百万円、自己株式の取得31億7千7百万円、配当金の支払31億3千3百万円、および連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得14億1千5百万円です。

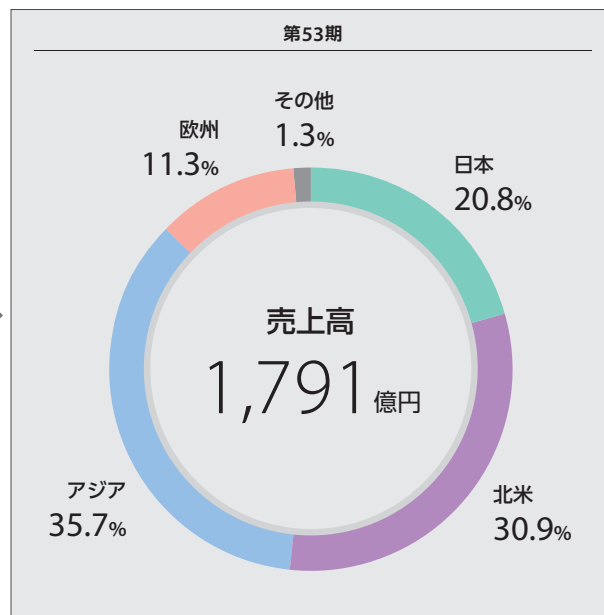
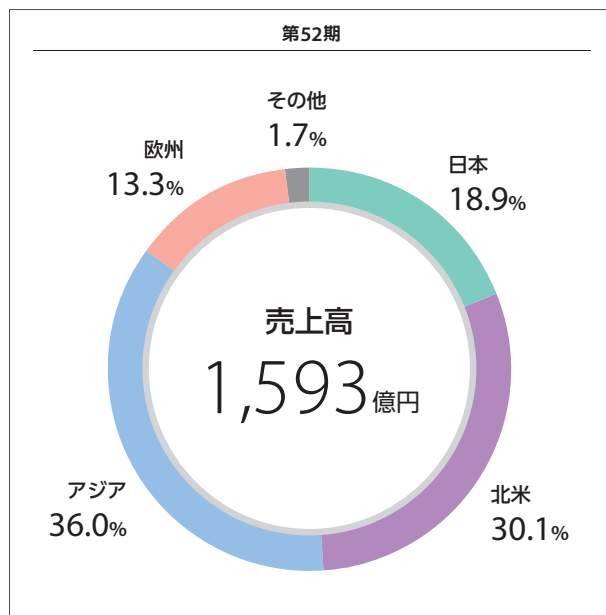
決算の状況

■ 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

第53期 (2015.4.1~2016.3.31)	株主資本					その他の包括利益累計額					非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期末残高	19,556	28,301	143,883	△12,850	178,891	29,892	0	12,425	△5,285	37,033	2,798	218,723
当期変動額												
剰余金の配当			△3,133		△3,133							△3,133
親会社株主に帰属する 当期純利益			11,105		11,105							11,105
自己株式の取得				△3,177	△3,177							△3,177
連結子会社株式の取得による 持分の増減		△628			△628							△628
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					—	1,179	△0	△8,049	△4,515	△11,385	△208	△11,593
当期変動額合計	—	△628	7,972	△3,177	4,166	1,179	△0	△8,049	△4,515	△11,385	△208	△7,427
当期末残高	19,556	27,672	151,856	△16,027	183,057	31,072	—	4,375	△9,800	25,647	2,590	211,296

■ 海外売上高比率(通期累計)

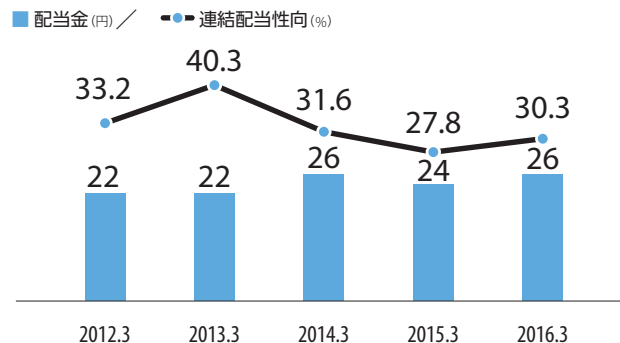


◆ 株主還元

ウシオは、株主の皆さまに対する利益還元が最重要課題の一つであることを常に認識し、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆さまに対し、安定的な利益還元を行うことを基本方針としています。当期の期末配当金は、経営環境や業績等を総合的に勘案し、普通配当を前期より2円増配し1株当たり26円としました。その結果、当期の連結配当性向は30.3%、連結純資産配当率は1.6%となりました。

また、資本効率の向上と機動的な資本政策の遂行を可能とするため、自己株式の取得を進めています。

なお、2016年5月12日～6月13日の期間において株式670,000株、総額861,584,200円の取得を実施しました。



アナリストの視点

2016年3月期の営業利益は期初計画をやや上回る着地になったが、1～3月期に前年同期比34%減益と失速する形となったため、市場予想を10億円程度下回った。通期で見ると、デジタルシネマプロジェクターの販売好調で装置事業が黒字転換したことが増益をけん引する格好に。一方、2017年3月期の営業利益は135億円で前期比2.8%増益の見通し、150億円レベルであった市場予想を大きく下回っている。1～3月期の収益失速、為替前提1米ドル=115円(1円の円高で1億円の減益要因)などから、保守的にも捉えにくいところである。収益性の高いシネマ

関連の回復度合いを見極めたい。また、新たな中期経営計画では、2019年3月期営業利益200億円を計画しているが、収益源であった光源事業の成熟化が意識される中、達成にはここ2年間活発化させたM&Aのシナジー効果の表面化、新たなM&Aを通した新規事業の確立などが必要と見られ、早期の顕在化に注目したい。

アナリスト
佐藤 勝己

株式会社フィスコ
株式チーフアナリスト



ここにもウシオ

美容医療分野への
進出

サンソリットの子会社化により、スキンケア事業の拡大へ

クリニックとのチャネルを活用

ウシオは、紫外線治療器「セラビーム®UV308」の製造・販売や、医療機関・クリニック専用のスキンケア化粧品ブランド「セラアラ」の取り扱いなど、スキンケア事業にも力を入れています。

今回新たにグループ入りしたサンソリットは、日本人の肌に適したケミカルピーリング（AHAピーリング）を開発しており、なかでも医師との共同研究等を通じて誕生したピーリング石鹸「サンソリットスキンピールバー®」は、皮膚科のみならず美容皮膚科や美容外科など国内約2,500の医療機関から高い評価を得ています。

サンソリットの持つクリニックとの強いチャネルを通じて、ウシオはスキンケア事業の拡大を目指しています。



予防医療に貢献
するウシオ

成人病リスクを血液で判定する検査を開始

病気による変化を早期発見してQOLを維持する



超高齢化社会に突入した日本において、QOL (Quality of Life) の維持と医療費の低減は重要な課題となっています。これらの課題を克服するには、病気の罹患リスクを早期に把握することが求められています。

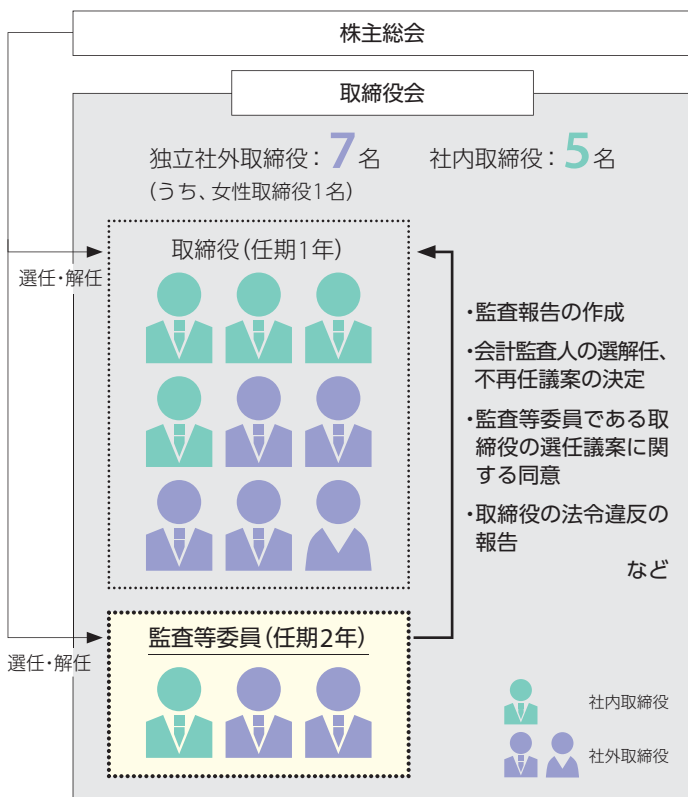
ウシオは、バイオマーカーサイエンス、プロトセラと共同で、大腸がんと糖尿病の罹患リスクを血液から判定する検査サービスを開始しました。本サービスでは、血液中に存在する病気特有の複数のタンパク質断片を質量分析法を用いて測定することで、血液採取後2～3週間でリスクを判定します。今後は順次対象疾患を追加する予定です。

◆ 監査等委員会設置会社へ移行しました

これまでウシオでは、独立社外取締役3名、独立社外監査役3名の選任に加え、委員長および半数以上の委員を社外取締役で構成する報酬諮問委員会を設置するなど、コーポレートガバナンスの強化に努めてきました。

今回、取締役会のさらなる監督機能の強化を図るとともに、重要な業務執行の一部について、その決定を業務執行を担う取締役および執行役員へ委任することによる意思決定の迅速化を推進するため、監査等委員会設置会社へ移行しました。

【監査等委員会設置会社】 3名以上の取締役からなり、その過半数を社外取締役が占める監査等委員会を設置



取締役監査等委員からのメッセージ



小林 敦之
取締役
常勤監査等委員

監査等委員会設置会社への移行に伴い、取締役の過半数を社外から選任し、社外取締役から当社経営に有益なご意見やご指摘をいただくことで、さらに監督機能を強化いたします。コンプライアンスを重視し企業価値の毀損を防ぐことを大前提として、監査等委員会に新たな監査項目として加わる「執行の妥当性の監査」を通じて、企業価値の向上へつなげていく考えです。

一昨年、ウシオは設立50周年を迎えました。付加価値の高い事業や製品をどのように事業化していくのか議論を進め、さらなる成長に向けて邁進してまいります。

株主さまとともに

◆株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行済株式総数 139,628,721株

株主数 11,951名

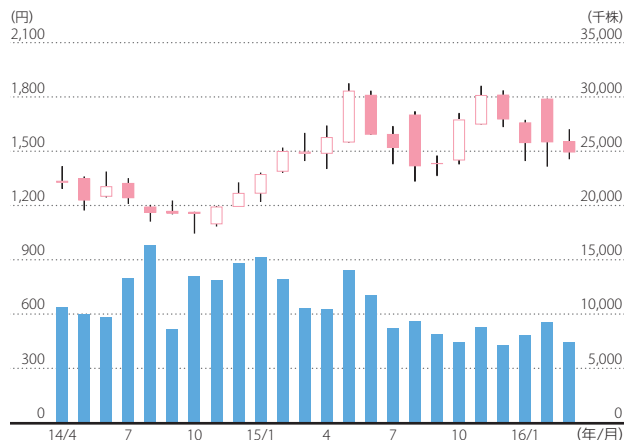
■大株主の状況 (200万株以上)

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8,711	6.23%
株式会社りそな銀行	6,471	4.63%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,093	4.36%
オーエム04 エスエスピー クライアント オムニバス	5,615	4.02%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.06%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,248	3.04%
ジェービー モルガン チェース バンク 385174	3,924	2.81%
朝日生命保険相互会社	3,305	2.36%
牛尾 治朗	3,136	2.24%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	2,464	1.76%
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.71%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	2,275	1.62%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	2,233	1.59%
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリユーエスタックス エグゼンプテッドペンションファンズ	2,199	1.57%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE - SSD00	2,019	1.44%

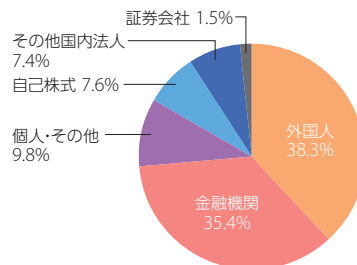
※上記のほか、自己株式が10,647千株あります。なお、自己株式10,647千株には、役員向け株式報酬制度に係る信託が所有する当社株式306千株を含んでおりません。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

■株価の動き／株式売買高



■株式の分布状況



◆ 株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
および特別口座
管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

〈郵便物送付先〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈電話照会先〉 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
<ul style="list-style-type: none"> 住所・氏名等の変更 単元未満株式の買取請求 配当金の受取方法の指定 相続 	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
<ul style="list-style-type: none"> 一般口座への振替 	—	
<ul style="list-style-type: none"> 支払期間経過後の配当金 	三井住友信託銀行	

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行います。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

役員(2016年6月29日現在)

代表取締役会長	牛尾治朗
代表取締役社長	浜島健爾
取締役	牛尾志朗
取締役	伴野裕明
社外取締役	中前忠
社外取締役	原良也
社外取締役	金丸恭文
社外取締役	服部秀一
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
取締役 (常勤監査等委員)	小林敦之
社外取締役 (監査等委員)	米田正典
社外取締役 (監査等委員)	山口伸淑

従業員数(2016年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,744名
国内グループ計	852名
海外グループ計	3,290名
合計	5,886名

グループ会社(2016年3月31日現在)

ウシオ電機株式会社

本社	東京都千代田区
播磨事業所	兵庫県姫路市
御殿場事業所	静岡県御殿場市
横浜事業所	神奈川県横浜市
大阪支店	大阪府大阪市

国内グループ会社

ウシオライティング株式会社	
株式会社ジーベックス	
株式会社アドテックエンジニアリング	
株式会社プロトセラ	
ウシオオプトセミコンダクター株式会社	他6社

海外グループ会社

北米

- USHIO AMERICA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC.
- CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.
- CHRISTIE MEDICAL HOLDINGS, INC.
- NECSEL INTELLECTUAL PROPERTY, INC.

欧州

- USHIO EUROPE B.V.
- USHIO FRANCE S.A.R.L.
- USHIO DEUTSCHLAND GmbH
- USHIO U.K., LTD.
- BLV Licht- und Vakuumtechnik GmbH
- NARIUM Sp. zo.o.

アジア

- USHIO HONG KONG LTD.
- USHIO TAIWAN, INC.
- USHIO PHILIPPINES, INC.
- USHIO (SUZHOU) CO., LTD.
- USHIO ASIA PACIFIC PTE. LTD.
- USHIO KOREA, INC.
- USHIO SHANGHAI, INC.
- USHIO SHENZHEN, INC.

他27社

発行:ウシオ電機株式会社 経営企画部

〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020

<http://www.ushio.co.jp>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。